Intervew

インタビュー

「天草の崎津集落」などについて、市世界遺産推進室の平田豊弘室長に話を聞きました。

――「天草の崎津集落」の価値はどのようなところにあるのか

日本にキリスト教が伝来したのが約450年前、その歴史は「伝来・展開」、禁教令による「弾圧・潜伏」、そして明治時代の再布教による「復活」です。このような中で、崎津は江戸時代の禁教下にあって、キリスト教の信仰がひそかに続けられていたことを証明できる古文書や遺跡・遺物が、今も残されているという点に価値があります。

たとえば、文化2（1805）年に潜伏キリシタンが一斉に発覚する〝天草崩れ〟という事件。これについては、そのときの取り調べを記録した古文書が残っていて、祈りの言葉や行事・風習など、当時の人たちの信仰のようすを詳細に知ることができ、〝マリア観音像〟や〝経消しの壺〟などの遺物がその証拠として残されています。

そして、キリシタン弾圧の象徴といえる〝絵踏み〟。これが行われていたのは、今の崎津教会が建っている場所であり、江戸時代は庄屋宅だったところです。毎年3月に実施されていたことが古文書などにより判明しています。

また、昭和9（1934）年に建てられた崎津教会の内部は、国内でも数少ない畳敷きになっており、西洋と日本の文化の融合をあらわす貴重な建築物です。

このように、崎津は日本におけるキリスト教の歴史の中で弾圧と潜伏を証明できるという点で、きわめて高い価値があります。

――なぜ世界遺産を目ざすのか

まず、天草の歴史や文化が世界に認められるということ。そして、貴重な遺産を後世に伝えることができる、これが最大の理由です。崎津は「天草市崎津・今富の文化的景観」として、国の重要文化的景観に選定されています。今後、崎津が世界遺産になれば〝世界の宝物〟として、保護・保存体制がさらに充実すると考えられます。

また、その情報が発信され多くの人たちが崎津を訪れ、交流人口の増加による地域活性化の絶好の契機になります。このことは市全体に波及すると思います。そして、私たち市民にとっても、天草の崎津が『世界の崎津』になることで、誇れるもののひとつになるのではないかと考えています。

――世界遺産の登録に向けて課題などは

確かに、世界遺産への登録はメリットばかりではありません。たとえば、崎津に多くの人が訪れることになれば、誰が案内をするのか、駐車場や休憩所はどこにするのか、教会や神社の見学マナーはどうするのかなど、課題はたくさんあります。

そして何より、崎津が世界遺産になることで、日ごろから地元で生活をされている住民の皆さんに、負担やご迷惑になるようなことがあってはならないと思っています。世界遺産になることで想定される課題を整理して、その課題をどのように解決していくかを考えることが、行政の役割だと思います。

市では今回の取り組みをさらに推進するため、市長を本部長とする「天草市世界遺産推進本部」を設置し、世界遺産の登録に向けた取り組みを、全庁的に進めているところです。

世界遺産推進室
平田 豊弘 室長（学芸員）

――世界遺産の登録の今後のスケジュールは

まず今年の夏に、国が現在の国内候補の中からどの遺産をユネスコに推薦するかを決定し、来年1月ごろにユネスコに推薦書が提出されます。

その後、イコモス（国際記念物遺跡会議）という専門機関による現地調査が行われ、その調査報告を受けて再来年（平成27年）の夏に、ユネスコの世界遺産委員会が登録するかどうかの審議を行います。つまり、世界遺産の登録は、最短で2年後ということになります。

▲空から見た崎津（点線部分が構成資産の範囲）

「天草の崎津集落」を世界遺産に！

入場無料

世界遺産シンポジウムを開催

「天草の崎津集落」について、市民の皆さんをはじめ、多くの人たちに理解を深めていただくため、シンポジウムを開催します。皆さんのご来場をお待ちしています。

●とき
9月1日㈰午後1時30分から

●ところ
富津地区コミュニティセンター
（河浦町崎津）

●内容
①基調講演
【演題】世界遺産と地域の暮らし
～信仰・景観・旅・暮らし～
【講師】鎌田道隆氏（前奈良大学学長）
②パネルディスカッション
【パネラー】宮原良治氏（福岡司教区司教）、仲野義文氏（石見銀山資料館館長）、中村美生氏（河浦地区公民館長）、安田公寛・天草市長
【コーディネーター】鎌田道隆氏

【問い合わせ先】
本庁（別館）・世界遺産推進室☎㉓1111

「天草の崎津集落」のキリスト教関連遺産

「崎津諏訪神社」
崎津集落の潜伏キリシタンが参詣していた神社。古文書には「何方へ参詣仕候ても矢張あんめんりゆすと唱申候」（どこにおまいりしていてもアーメンデウスと唱えていました）と記されている。

「崎津教会」
ハルブ神父により昭和9（1934）年に建設。設計・施工は長崎の建築家、鉄川与助。
※教会は祈りの場です。節度をもって拝観してください（教会内部の写真撮影は禁止）。

※市世界遺産推進室撮影

「マリア観音像」

「経消しの壺」

江戸時代の潜伏キリシタン信者が信仰した遺物（天草ロザリオ館展示）。

「信仰を伝える古文書」
キリスト教の信者が、弾圧で仏教に転宗したことを示す古文書。信仰のようすなどについて記されている（天草ロザリオ館展示）。

「旧崎津教会跡」
明治17（1884）年、フェリエ神父により崎津教会の建設が進められたが、資金不足により中断し、同21（1888）年に完成。設計・施工は崎津村の大工、森田伝次郎。その後、同教会跡には修道院が建てられた（写真は現在のようす）。